

教職員研究グループ活動状況報告書

代表者の所属・ 職・氏名	西宮市立苦楽園小学校	研究グループ名 (ライフスキル研究グループ)
	主幹教諭 大東 和子	

研究テーマ分類番号 (17)

(1)研究テーマ	
ライフスキルの参加型プログラムの開発と啓発	
(2)研究経過及び具体的な取組	
<p>WHO 精神保健部局は、世界各地で社会問題となっている子どもたちの危機的状況を未然に防ぐには、ライフスキル教育を導入すべきだとそのガイドラインをまとめた。</p> <p>子どもたちに、「生きる力」(Willingness to Live)を育むために、私たちはライフスキルの内容や方法を研究し、1冊の本「かけがえのないわたし そしてあなた - ライフスキル - 」にまとめた。今年度は、新しい研究員も加わり、低学年・中学年・高学年にふさわしいプログラムの実施時期と内容について、さらに詳しい研究を進める。また、職員研修も設定して、児童と共に、職員の自尊感情が高まる工夫も研修する。</p>	
7月31日	<p>西宮市小学校教科等研究会でのワークショップの準備(午前)</p> <p>・実施場所：西宮市立苦楽園小学校</p>
7月31日	<p>ワークショップ実施(午後)</p> <p>・場 所：西宮市立瓦木小学校(参加者約35人)</p> <p>・内 容：西宮市小学校教科等研究会(学級経営・生徒指導部会)の今年度のテーマである「親和的学級風土の作り方」に役立つライフスキルプログラムを紹介</p> <p>・成果と課題：「出会いのカード」・「感情パズル」・「ハートビーイング」などのグループワークを職員に体験してもらおうと、「2学期にすぐに実施したい」「自分自身が元気になった」などの感想が多く、児童への手立てと共に職員の自尊感情も高めることができた。</p>
8月17日	<p>ワークショップの実施</p> <p>・場 所：西宮市立苦楽園小学校(参加者10人)</p> <p>・内 容：舞鶴市立城南中学校職員対象にライフプログラムを紹介</p> <p>・成果と課題：参加者の感想より中学生にも有効だと再確認できた。「さんれもの冒険」は情報カードを英語で表記することもでき、中学生ならではの工夫も考えられた。</p>
8月30日	<p>ワークショップの実施</p> <p>・場 所：猪名川町立猪名川小学校(参加者20人)</p>

- ・内 容：猪名川小学校の職員対象にライフプログラムを紹介
- ・成果と課題：以前に猪名川町立教育委員会でワークショップを実施した時に参加した職員が是非自分の学校の職員にも体験してもらいたいとの要望で今回ワークショップを実施した。ライフスキルプログラムの普及が進んでいることを実感できた。また，参加者からは，自分自身を見つめなおすよい機会になったとの感想が多く，自尊感情が高まっているように思えた。リピーターに対応できるような体験プログラムを考えることも課題である。

9月22日

新プログラム開発に向けての講習会

- ・場 所：西宮市立苦楽園小学校
- ・講 師：心理カウンセラー
- ・内 容： 自己イメージを例えて自己紹介
色のついた言葉集め・自己イメージを色で紹介
自己イメージチェックシートによるチェック
アウェアネスカードの使い方 等
- ・成果と課題：脳は実体験もイメージ体験も同じ刺激として受け取るので，イメージの大切さを改めて感じた。上記のカードで自己イメージを見直すことができ，他者に思われている自分は自分の思っている自分と違ったり，欠点が長所に見直されたり，気づきがあることで違いを認め合えることがわかった。児童用にどのように，授業展開するかが今後の課題である。

11月25日

各担当学年学級での実践の報告検討

- ・場 所：西宮市立苦楽園小学校
- ・内 容：Q-U，自尊感情を測定する「そばセット」のデータ考察
- ・成果と課題：実施ライフスキルプログラムとデータの関係をもっと検討していく必要がある。支援の必要な児童がいる学級で，どのプログラムを実施すればよいか引き続き検討し，3学期に実践できるようにしたい。

ライフスキル研究会のホームページを公開し，発信し続けている。